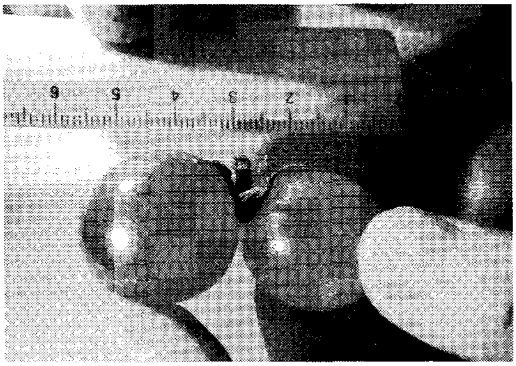
双子のマメトマト果実

Arei KOBAYASI and Shin KUBOTA : Twin fruits of mini-tomato

小林亜玲＊・久保田　信＊＊

2005年4月5日に和歌山県西牟婁郡白浜町のスーパーマーケットで購入したマメトマト *Lycopersicum esculentum* Mill. var. *cerasiforme* (Dunal)（＝　チェリートマト，プチトマト，ミニトマトなど）果実の中の1個が、互いに癒着しないで根元で完全に分かれて実った双子状態（図1）になっている珍しい事例に再び遭遇したので報告する。1対の液果は、前報（久保田，2003）と同様に、どちらもほぼ等大で正常の大きさと色（橙赤色）であった。初例との相違は、今回の双子果実の萼片が、先が二股になっている部分もあったものの5本と通常の数であり（図2）、初例が8本で異数であったのと異なっていた。

このような「双子」ができた原因は，前報（久保田，2003）で推定したように、対生（または互生）する総状花序の枝梗の2本が正常に分かれることなく癒合し，それぞれに果実が癒着しないで結実したことによる。



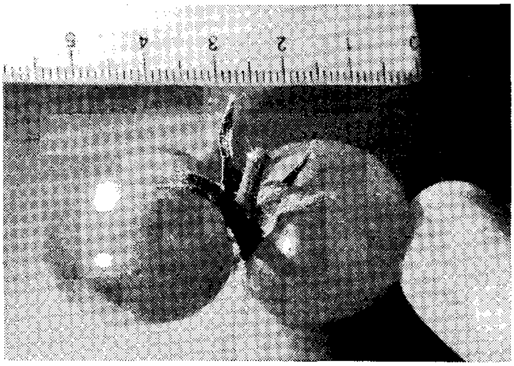


図1，2．双子のマメトマト果実 Two views of twin fruits of mini-tomato

引用文献

久保田信，2003：双子のマメトマト果実．くろしお，(22)，23.

＊，＊＊京都大学フィールド科学教育研究センター海域ステーション瀬戸臨海実験所

（〒649-2211　和歌山県西牟婁郡白浜町459）